

## 戦争は最大の人権侵害

20世紀は、「戦争の世紀」と言われます。第一次、第二次の両大戦で民間人を含めた死者は、数千万人に達しました。

この大戦の反省から、恒久平和や基本的人権の尊重を理念とする「日本国憲法」が制定され、国際連合では「世界人権宣言」が採択されました。

戦争では、様々な権利が制約されたり、否定されたりします。最も基本的な人権の一つである生存する権利でさえ脅かされます。「戦争は最大の人権侵害」であると言えます。

### 〈大山町内では〉

戦後70年の節目にあたる今年、大山町内でもいろいろな取り組みがありました。

中山地区人権・同和教育推進協議会は、13歳で満蒙開拓青少年義勇軍に志願された、遠藤昭夫さん（松河原）の壮絶な体験を冊子『よう 生きて帰ったですわ』にまとめました（広報だいせん10月号で紹介）。

7月28日に行われた「大山口列車空襲の慰霊並びに平和記念の集い」では、東京在住の近藤裕さんが、当時（中学校3年生）の様子を語られました。近藤さんの手記「喜寿・金婚」の中に、この体験を次のように記しておられます。

「昭和20年7月28日朝、赤碕から米子へ向かう通勤列車を米軍艦載機が何機かで襲い、乗客に多数の死傷者がました。次々と低空ま

で降りて来て機関銃で乱射するので、車内は悲鳴とうめき声で満ち、列車は血の海になりました。（後略）」

8月15日には、大山町教育研究所が取材に協力した「永安丸撃沈」の様子もテレビで放映されました。大山町教育研究所では、改めてこの事件を体験された方への聞き取りを行い、冊子としてまとめる作業を進めています。

### 〈「望郷の鐘」上映会〉

11月15日（日）に中山温泉生活想像館で、ええがな大山実行委員会と大山町人権・同和教育推進協議会の共催で「望郷の鐘 満蒙開拓団の落日」の上映会が開かれます。この上映会に合わせて、鳥取大学非常勤講師 池原正雄さんによる「鳥取の満蒙開拓を見つめて」

の講演も行われます。

「今回上映される映画『望郷の鐘』は、長野県の満蒙開拓団の様子を描いたものです。しかしそこで起きたことは、そのまま鳥取県にも重なります。満蒙開拓には鳥取県も積極的に取り組み、今の中学3年生から高校3年の年齢の者だけで編成された青少年義勇軍の人口比送出率は全国一でした。なぜ少年なのか。なぜ鳥取なのか。『開拓』の意味とは。その背景や原因について提起するとともに、改めて身近な問題であることを見つけたいと思います。」池原さんのコメントです。

改めて戦争について考えるよい機会になると思います。みなさんぜひ、ご来場ください。（参考：大山西小学校「西小だより」9月号）

## 「望郷の鐘 満蒙開拓団の落日」

### ◆ストーリー

「中国残留孤児の父」といわれた山本慈昭。生涯を残留孤児たちの肉親捜しに捧げ、献身的な愛で支えた。その生涯をたどる感動の物語。

（主演：内藤剛志）

### ◆上映日時 11月15日（日）

①13時30分～ ②18時30分～

（所要時間：1時間45分）

### ◆入場料 大人 800円

中学生以下 500円

未就学児 無料

### 【映画上映との連動企画】

〈講演〉「鳥取の満蒙開拓をみつめて」

講師：池原正雄さん

### ◆日時 11月15日（日）

15時30分～16時30分

二胡の演奏もあります。

### 〈パネル展〉

「鳥取県の満蒙開拓青少年義勇軍」

（資料提供：鳥取県公文書館）

※講演会・パネル展は入場無料

### ◆場所 中山温泉ナスパル

生活想像館わくわくホール

### ◆主催 ええがな大山実行委員会

### ◆共催 大山町人権・同和教育推進協議会

### ◆問い合わせ先

中山温泉 ☎0858-49-3330